

1 おかやま子ども支援ネットワーク事業の概要

(1) 目的・趣旨

子どもの貧困が社会問題化する中、日本においては7人に1人の子どもが貧困状態にあり、相対的貧困率は国際的にみても高い水準にあります。

子どもやその家庭の貧困は、見た目での判断が困難で、本人が周りに自らの状況を言いづらいことから、当事者が見えにくいという問題があります。また、貧困状態におかれた困難を抱える子どもは、生活習慣の形成や学習、進学等に支障が出るなど、不利な状況に置かれることがあります。まずは行政でそのような子どもや家庭を早期発見し、適切な支援に結び付けていくことが重要です。そのうえで、行政支援が行き届かない側面を、柔軟できめ細かな対応を行える民間団体が実施することが、子どもの貧困問題の対応に必要不可欠であります。

しかしながら、本県においては民間団体の数が少ないうえに、マンパワーや資金面での悩みを抱えている民間団体が多くあります。

本事業は、子どもの貧困対策や子どもへの支援を行う民間団体の数そのものを増やすほか、活動する民間団体間のネットワークを形成し、様々な情報や物資、運営のノウハウ等を共有することで民間団体の運営体力や対応力の向上を図るものです。

また、困難を抱える家庭の見守り支援としては、生活必需品等の物資を配布すると同時に行う民間によるフードドライブ活動が有効な方法の一つです。しかし、そのような活動を行っている民間団体が存在しない市町村も多くあり、全県をカバーする広域的な見守り支援を行える民間団体も県内にありません。そのため、本事業を通じて市町村域を超えたフードドライブを通じた困難を抱える家庭の見守り支援が実施でき、市町村との連携を行える民間団体の育成を行うことを目的としています。

◆背景の課題

- ・ 困難を抱える子どもを支援する民間団体の数が少ない。
- ・ 民間団体の多くは、資金・マンパワーなどの運営体力が不足している。

◆本事業の目的

- ・ 実践者のノウハウ等を共有することによって、民間団体の数を増やす。
- ・ 情報や物資を共有することによって、民間団体の運営体力の向上を図る。

(2) 事業の進め方等

本事業は、県内の中で地域のつながりのあるエリア分けを行い、その圏域ごとに委託団体を選定し、ネットワークづくりを行いました。委託団体は公募により募集し、プレゼンテーション審査を経て決定しました。

◆県内のエリア分け

<備前圏域>岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町

＜備中圏域＞倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町

＜美作圏域＞津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町

◆事業の実施団体

＜備前圏域＞一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ

＜備中圏域＞認定NPO法人ハーモニーネット未来

＜美作圏域＞NPO法人オレンジハート

◆実施期間 令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

(3) 事業内容

① 情報発信・情報共有を含めたネットワーク体制の構築

(参加の働きかけ)

- ・圏域内で活動している団体のネットワークへの参加を働きかける。
- ・新たに活動を始めたい方へのサポートを行う。

(仕組みづくり)

・圏域内の団体間で情報共有や情報発信を行うとともに、食材提供や寄附、ボランティアの登録の受付、協力企業等の把握、協力企業等とネットワークに属する団体とのマッチング、各団体で関わる困窮家庭支援のケース検討など、団体の運営を持続可能なものにし、対応力の向上に資するための仕組みづくりを行う。

(ネットワーク会議)

・子どもの居場所づくり等の子どものいる困窮家庭への支援に取り組む団体の活動内容や課題、実際に取り扱っている困難なケース等を集約し、連携のあり方や対応策の検討を行うとともに、関係者間の連携体制の整備を図るネットワーク会議を年複数回開催し、団体の相互連携により支援団体の育成や運営の強化、各団体の対応力の向上を図る。

② 市町村域を超えたフードドライブを通じた見守り支援の実施及び実施体制の構築

・現在、委託団体が実施しているフードドライブを通じた見守り支援について、その活動範囲を広げ、市町村域を超えた支援を年3回程度実施し、そのノウハウの蓄積や地域とのつながりを構築する。